

平成23年度 北海道男女平等参画チャレンジ賞贈呈式 懇談内容

日時：平成24年2月6日（月）15：30～
場所：知事会議室

小梅さん

かあちゃん食堂を始めたのは、平成17年からで、今年でちょうど7年になります。始めたきっかけは、私は地域の民生委員をやっておりまして、地域には高齢者がたくさんいらっしゃいますが、集まる場所もないので引きこもりになったり、孤独死の危険もあるのではないかと気になっていまして、少しでも防げたらいいなという思いからでした。

そこで、みんなが集まってきてくれたなら情報も得られるし、新たに起業するとして資金が必要ですが、当時は酒屋を経営していたので、その一角を利用してテーブルを一つ設けたら、3人でも5人でも、少人数で構わないので、そこに皆さんが集まってきてくれるのではないかと考えました。

また、地域の店から食材を購入するなどして、地域も活性化するのではないかと考えました。

昭和40年頃の酒屋には、「もっきり」（店頭での酒の立ち飲み）というものがあり、お父さんたちがコップ酒を飲んで、とても賑わっていたのです。そのような賑わいを、高齢者が集まってつくることができたら、すごくいいなと思いました。

しかし、思いはあってもなかなか行動に移せずにいたところ、女性を対象にした起業セミナーを受けまして、そこで開業を決意しました。あの時、起業セミナーを受けていなかったら、開業は諦めていたと思います。

幸い、同じように高齢者のたまり場が必要だと考えている友達が3人くらいいて、手伝ってくれることになり、それならばやっていけると思い、開業しました。

今では、自分たちが一番楽しみながらやっています。一人では何もできません。皆さんの協力、家族の理解が必要です。地域の方々もみんな協力してくれまして、なんとかやっています。来てくださる方も、みんな楽しみにしてくれています。

食堂では、みんなでいろいろな話をして、「最近是谁が来ていない」などと心配しています。お客さんの中にも、「もし私がここに来なかったら、私に何かあったと思って家まで見に来てね」と言ってくださる方もいて、食堂は大事な場所なんだと認識しています。

高橋知事

食堂で人気のメニューは何ですか？

小梅さん

みんな人気があります。

1食300円で提供していますが、値段を高くするとお客さんの負担も増えますから、300円をずっと続けています。自分たちで山菜を採ったり、野菜を栽培したり、漬け物をつけたり、いただいたものを利用するなどして、賄っています。

また、イベントの時にのり巻きをつくって販売したり、お総菜をつくってパックにして食堂で販売するなどして、なんとか赤字にならない程度にやっています。

食堂を手伝ってくれる方も高齢者ですが、「足と腰は悪いけど、手と口は達者だから」と言って、手伝ってくれています。それも高齢者との一つのつながりになっています。

お客さんも、食堂が忙しい時にはお盆を運ぶなどして手伝ってくれて、和気あいあいと楽しくやっています。

高橋知事

楽しそうで、なによりです。これからもぜひ続けていってください。

清水さん（はるにれの会）

本日は、帯広市の協力を得て作らせていただいたリーフレットを持ってきました。本当によくできたリーフレットで、私たちの活動がとてもよくわかるものになっています。

はるにれの会の活動としては、毎月1回「はるにれ通信」を発行しています。

また、設立15周年を記念して、15周年記念誌を発行しました。これは、不登校になった当事者たちの生の声を記載しているもので、不登校の子どもたちと関わる人たちにはとても参考になるものです。今悩んでいる親御さんたちも、これを読んで励まされ、がんばれるということで、皆さんに利用していただいているものです。

高橋知事

不登校となって、はるにれの会の皆さんと関わっておられるのは、小学校、中学校、高校、どの世代のお子さんが多いのですか。

清水さん（はるにれの会）

お子さんは、小学校1年生から、30代、40代になるまで、全ての年代でいらっしゃいます。

ほとんどのお子さんは、進学など次のステップへ進めるようになりますが、一部のお子さんは、次のステップへ進めずにそのまま家で引きこもりになっており、昔は小学生であったお子さんが、今では30代、40代になっています。こういう方もたくさんいます。

また、会に参加している親御さんは、会の名前に「不登校・登校拒否」と明記しているので、中高生の親が圧倒的に多いです。

若い親御さんは、例会に来ることが少なくなり、会との距離が離れていくことが多いです。しかし、ワカサギ釣りやパンづくりなど、いろいろなイベントに参加してもらうことにより、心が打ち解けます。このように、楽しいことも交えて、お互い信頼関係を築くようにしています。

高橋知事

不登校、引きこもりには、いろいろな理由、背景があると思われませんが、学校でのいじめといった背景がある場合など、学校の先生方ともコミュニケーションを取った方がよい案件もあると思います。

川尻さん（はるにれの会）

はるにれの会では、帯広市内の全小中学校を、会のリーフレットを持って私たちが回って、学校の校長先生、教頭先生とお話しさせていただき、困っている親御さんがいたら、ぜひ声をかけてくださいというお願いをさせていただきました。ですから、市内全部の小中学校には、リーフレットが1部ずつあります。また、例会に何度か学校の先生がお見えになったことがあります。

例会では、当時不登校だったお子さんが社会に出て、社会人になって、自分たちの生の声を聞かせてくれることがあります。社会人になった子供たちが、自分はどうやって克服したという話をしてくれるので、その話を聞いた親御さんたちは、とても心強く思い、少し明るい気持ちになります。このような活動を、18年続けています。

高橋知事

これからもぜひ続けていってください。